

平成 26 年度 第 2 回熊本市公共交通協議会 議事録

I 日時等

1. 日 時：平成 26 年 9 月 4 日（木）午後 3 時から午後 4 時 15 分まで
2. 場 所：熊本市役所 本庁舎 1 4 階 大ホール
3. 事務局：熊本市 都市建設局 交通政策総室

II 主な内容

1. 開会

2. 議事

(1) 市電における熊本地域振興 IC カード利用環境構築について

- ・ 事務局が「資料 1」「資料 2」を説明。
- ・ その後、質疑応答。

(会長)

- ・ これまで示されてきたスケジュールでは平成 27 年 3 月ということであったが、これが 4 ヶ月程度遅れることになる大きな要因は、全国 IC カードシステムで「地域振興 IC カード」を読取って処理を行う事業ということで、これは全国初の試みであり、各事業者の役割分担や開発スケジュールの協議等、事業スキーム及び事業費の精査に時間を要したということ、また、開発期間としては適正工期を確保する必要があるということであり、これらのことにより、平成 27 年 8 月の運用開始となるということであった。
- ・ このため、事業自体は平成 27 年度までの 2 ヶ年事業として実施し、9 月の市議会で予算計上を行い、承認を得られるよう取り組んでいくとのことであった。
- ・ いままでの説明について意見や質問はないか。

(熊本県 審議員)

- ・ 質問というよりも要望ということで発言させていただく。バスと市電にそれぞれ異なる IC カードシステムが導入され、相互に利用できる環境の構築が必要となる中で、やはり、「地域振興 IC カード」のサービスインと同時に、市電でも「地域振興 IC カード」が使えるようになるということが、非常に大事な部分であると考えていた。
- ・ そして、今の説明によると、関係者が工期的な問題等があるなかで、詳細な協議を密に行った結果、どうしても運用開始時期がずれてしまうということであった。
- ・ 最短で平成 27 年 8 月に運用開始ということであったが、これ以上遅れるこ

となく、できれば、1日でも早いサービスインができるよう、当然関係者の方々はこのような目標を持っていると思うが、これまで以上に取り組みを進めていただきたいと思う。

- ・ それから、この数ヶ月間、利用者に混乱をきたさないように、十分な周知をしていただければと思っている。

(会長)

- ・ この点については、導入連絡会議のなかでも触れ、双方が努力していくということが確認された。これは皆さんの要望だと思うが、今、県の方から改めて、1日でも早い運用開始を目指してほしいということで、関係者の皆さんに対して要望があった。これについて、交通局から一言いただきたい。

(委員)

- ・ 公共交通利用者の利便性の向上に繋げていくという点から、私どもも、できるだけ早い時期にシステム構築を終えて運用を開始したいと思っている。関係するシステム開発事業者との連携を密にして引き続き取り組んでいきたい。

(会長)

- ・ 事務局はいかがか。

(事務局)

- ・ 我々も、市電における「地域振興 IC カード」の対応については、平成 27 年 3 月の運用開始を目標とし一生懸命取り組んできたところ。しかしながら、やむなく平成 27 年 8 月の運用開始ということになった。これについては、事務局を預かる身としても、お詫びを一言申し上げたいと思う。
- ・ これから、1日でも早くサービスインできるように努めていくと共に、「地域振興 IC カード」を含めて、サービス開始時期とサービス内容について利用者の方に分かりやすく知っていただけるよう、周知について、市が総合的な管理をしていきたいと考えている。

(会長)

- ・ 他に質問や意見はないか。

(委員)

- ・ 市電において「地域振興 IC カード」が利用できるようになる時期が、平成 27 年 8 月にずれるという報告があった。これまでの会議の中では、来年の

3月の運用開始を目指すという中で、6月議会には具体的には（補正予算）が上がりきれなかったということで、懸念していたところであった。

- ・ この間、色々な都市に行ってきた。その中では、全県でICカードを導入しているものの全国相互利用ICカードには対応していない都市や、例えば、宮崎交通のように思い切って地域限定のICカードを止めて、まだ国の補助金の目処が立っていないが、全国相互利用ICカードに作り変えるところなど、様々な取り組みがなされていた。
- ・ そして、全国的に見ても、地域ICカードがあり、なおかつ、全国相互利用ICカードが利用できる環境を構築しようとしている熊本県の取り組みは、大変精力的であると認識した。それだけに、私たちは、この資料に書いてあるように、最短で、努力して、なんとか8月になるということを理解しておかなければならないかと思う。
- ・ システム開発事業者にも一生懸命頑張ってもらっているが、システム開発ということで、おそらく試験期間において試験がスムーズに行く前提でスケジュールを組まれているかと思う。ここにいろいろとトラブルがあって、これを修正することとなると、当然、また1ヶ月延びるといったこともあるかと思う。運用を開始してからトラブルがあってはおかしいので、しっかりと試験を行って、「これで大丈夫だ、全国から見にきていただいても大丈夫。」というものであれば、最終的には平成28年3月にすべてが出揃うので、しっかりと頑張ってもらいたい。
- ・ また、期限が設定されたということで、急いだ結果、後から問題が起こってしまわないよう、しっかりと頑張ってもらいたい。

(会長)

- ・ 全国相互利用ICカードシステムでの一本化から外れている多くの地域からすると、熊本での試みは、全国的にもモデルケースということで注目されているかと思う。このような状況を認識された中で、今、関係者が大変努力されていると思う。ぜひ、試験期間も含めて、順調に進めていただきたいと思う。他に質問や意見はないか。

(委員)

- ・ 今までの協議会の報告では、あくまで私の印象だが、市電で「地域振興ICカード」を使えるようにするというのは、あまりに技術的に問題は無いというように報告がされていて、記録にも残っているかと思う。
- ・ これまで、バス等で全国相互利用ICカードが利用できる環境の構築について議論が集中していたと思う。ここにきて、改めて、「全国初の試み」ということを強調されてきたかと思うが、そのように聞くと、開発自体は現時点では全体で4ヶ月遅れということだが、実際に、技術的に開発の目処が

立っているのかということが少し不安に感じる。この点について、開発事業者から状況の報告を受けているのか。

- ・ また、開発の進み具合によっては、さらに遅れることがあるのではないかと。「全国初の試み」というだけに不安が高まっているが、いかがか。

(会長)

- ・ 委員の皆さんが、全く同じ意見だと思うが、市電に全国相互利用の IC カードシステムが導入されることが決まった中で、地域振興 IC カードシステム内で、この全国相互利用 IC カードが利用できる環境をいかに構築していくかということが、これまでの主な議論の的であった。
- ・ その前提として、市電における「地域振興 IC カード」の対応については、技術的にまた、スケジュール的に問題ないと思っていたのだが、6 月議会での予算計上を見送られ、今回 9 月議会に予算を計上することとなった。
- ・ この間、技術的な問題が無いということであったが、ここにきて、全国初だから、あるいは、それに伴うスケジュールの遅延といった疑義について「熊本 IC カード導入連絡会議」でも議論があった。事務局からその経緯について説明していただきたい。

(事務局)

- ・ 確かに、去年の段階では、バス等で全国相互利用 IC カードが利用できる環境の構築についての議論に重きを置いていたという性質があった。そして、市電における「地域振興 IC カード」の対応については、漠とした情報によって「技術的には可能」という話であった。
- ・ そして、具体的に、交通局が主体となって、「地域振興 IC カード」の開発事業者と「でんでんニモカ」の開発事業者の双方に集まっていたいただき、実務者会議をこれまでに 7 回ほど開かせていただいた。
- ・ この中で、開発の手法やスケジュールが明らかになってきて、今回の 9 月議会にて補正予算として計上させていただくこととなった。スケジュールについては、システム開発事業者から示された平成 27 年 8 月が最短ということであり、また、交通局としても、システム障害を起こさないような安全なシステム構築を行う必要があると考えているため、ここにお示ししたスケジュールで進めさせていただきたいと考えているところ。

(会長)

- ・ 漠とした情報の中で進めてきたなかで、内容を精査していくといった時期が少し遅かったのではないかと印象がある。しかし、双方の技術が進んでこないと精査できなかったということもあり、バス事業者の「地域振興 IC カード」の開発の進捗状況に合わせる事によるずれ込みが、2・3 ヶ

月あったのかと思う。

- ・ 漠としたところから、実際に精査を進めていくまでの期間に、少しずれ込みがあったかと思うが、この間の経緯等について委員からご説明をお願いしたい。

(委員)

- ・ 本年の4月以降、実務者会議を進めていく中で、地域振興 IC カードシステムとニモカシステムのすり合わせをしながら新しいシステムを組んでいくということについて、協議を重ねる中で見えてきた課題があるかと思う。
- ・ よって、総論的に眺めているときと細部にわたって各論を詰めていく過程の中で、それぞれの IC カードのスケジュールや仕様書のすり合わせなどのあたりで困難性が見えてきたと思う。
- ・ 時間的には、「地域振興 IC カードシステムの開発を終え、運用を開始した後、市電で利用できるためのシステム構築を行う」といったように、段階を追ったなかでシステムの技術的な検証が必要かと思うが、そこを同時並行で行っていくことの困難性があったかと思う。
- ・ したがって、今年度内に市電で「地域振興 IC カード」が利用できる環境を整えるためのシステムの構築を終えることが難しかったと考えている。

(会長)

- ・ 事業主体としての印象は概ねそうだと思う。この協議会としては、4月の段階で技術的な精査を始め、6月の議会に予算を計上することが難しいというような進捗状況について、5月に開催した第1回目の協議会にて、「どうもずれ込みそうだ。」とか、「何か問題がありそうだ。」ということについて報告があれば、本日の協議会に繋がってきたと思う。
- ・ 今回初めて「ずれ込みそうだ。」という話ができただけ、この間の時間的に空いたということが、委員からすると「何か唐突に運用開始時期が延びたのではないか。」といった印象を持つことになるかと思う。これについては、この場で、その印象を整理していただければと思う。
- ・ まとめると、技術的な精査を経たなかで、結果的に運用開始時期がずれ込むことになった。現時点としては技術的な詰めを行っているので、工期を改めて設定したなかで、エラーが発生しないように慎重かつ迅速に取り組んでいただきたいと思う。
- ・ また、今回明らかになったこととして、今回の取り組みが結果的に「全国初」ということで、国からも注目されているということであるため、ぜひ、事業主体としても円滑に進めていただきたい。

2. 議事

(2) さくらカード・おでかけ乗車券の IC カード対応について

- ・ 事務局が「資料 3」を説明。
- ・ その後、質疑応答。

(会長)

- ・ 今、事務局から説明があったことを整理すると、「さくらカード」と「おでかけ乗車券」の 1 枚化は難しいということであった。そして、現行の磁気カードで運用している「おでかけ乗車券」を地域振興 IC カードシステムで IC カード化し、その運用開始は平成 28 年 3 月を予定しているということであった。
- ・ カードとしては、「さくらカード」と「おでかけ乗車券」の 2 枚のままであるが、この 2 枚のカードを 1 つのケースに入れて、降車時に「さくらカード」を提示して、IC カードリーダーにそのままタッチするということが可能になる。
- ・ この収納ケースがなければ、このようなことができないわけだが、収納ケースは市で用意する予定なのか。

(事務局)

- ・ 当局としては収納ケースは行政が用意し、「さくらカード」の更新時に配布したいと考えている。

(会長)

- ・ このようなかたちで、2 枚のままでも不便をかけないようにするということがあった。この事業自体は、平成 26 年度と平成 27 年度の 2 ヶ年事業として実施し、9 月の市議会にて予算計上を行うということであった。
- ・ また、事業内容やサービス内容については、運用面でのバス事業者との協議を踏まえての内容であるということであった。
- ・ この議題について、何か質問や意見はないか。

(委員)

- ・ プリペードカードについては高齢者の方々にとって、ようやく慣れてこられたところだと思う。また、目のご不自由な方や手足のご不自由な方にとっては、大変使いづらいということがあったので、このようなかたちで IC カード化されることについては、利用者の方々にとって大変喜ばれることになるかと思う。
- ・ 1 枚化したほうが良いのではと思うこともあったが、収納ケースによる一体化を考えられているということで、大変配慮があることだと思う。

- ・ 事業者の方々に対しては、これは要望だが、3年ほど前の「熊本市事務事業外部評価会議」にて、「さくらカード」の費用負担の問題が議題となり、どのようなかたちで利用されて地域経済にどのような効果があるかについて会議開催後に検討がされた。
- ・ 「さくらカード」で街に来たり友人と会ったりということで、その効果が30億円を超えるということが示された経緯もある。今、障がい者の方にとっては1割、高齢者や被爆者の方については2割負担ということで、このことが健康増進や地域経済に絶大な影響があるかと思う。
- ・ 事業者の方々におかれては、この利用者負担割合を増やさずに、ICカードになったので大変便利になり、さらにおでかけする機会が増えるというかたちになるように、ぜひお願いさせていただきたい。

(会長)

- ・ この点について、事業者は事業者としての立場があるかと思うが、事務局の方で現時点でお答えただけことがあればと思うがいかがか。

(事務局)

- ・ 費用負担のあり方については、様々なご意見をいただいているところであり、今後も、ご意見をいただきながらしっかりと検討していきたい。

2. 議事

(3) その他

(会長)

- ・ 「その他」ということで1点確認させていただきたい。本日、市電で「地域振興ICカード」を読み取る環境の構築、また、「おでかけ乗車券」のICカード化について報告があり、これで熊本の交通系ICカードの導入スケジュールが概ね出揃ったことになる。
- ・ ここで利用者の立場から申し上げると、現行の「TO熊カード」がいつまで利用できるのかといった、いわゆるICカードと「TO熊カード」の併用期間の問題があり、これも大変重要な事案であると考え。
- ・ 併用期間については、「でんでんニモカ」を運用する市交通局と「地域振興ICカード」をするバス事業者等で協議を行うこととなる訳だが、現時点でのお考えをそれぞれお聞かせ願えればと思う。
- ・ 今後、来年3月に「地域振興ICカード」の運用が開始され、8月には市電で「地域振興ICカード」の読取りが運用開始される。また、「おでかけ乗車券」については再来年の3月運用開始ということで、併用期間については、少なくとも「おでかけ乗車券」がIC化される平成28年3月までは必

要だということだと思う。

- ・ このような今後の導入スケジュールを踏まえた中で、まず、バス事業者を代表していただき、委員に一言お願いしたい。

(委員)

- ・ 「おでかけ乗車券」が磁気カードとして平成 28 年 3 月まで残るということであれば、それまでは必ず使えるようにしておくことになる。一方で、カード事業としての成立などの条件もある。
- ・ 残念ながら、今、バス事業者としては、大変申し訳ないが、今年の 4 月の運賃改定後において、大変厳しい状況になっている。このようことも含めて、皆様にご理解いただける期間はどうか、また各地でどれだけの併用期間を設けたのかなどを含めて検討してまいりたい。
- ・ 「TO 熊カード」から完全に IC カードに移行すると、「TO 熊カード」のプレミアムの部分についてはご不便をかけることになるので、いつまで磁気カードが使えるのか、また、販売期間はいつまでにするのかという点も含めて慎重に協議をさせて頂き結論を得たいと思う。
- ・ 現時点では、平成 28 年 3 月から半年後または 1 年後というような結論は出ていないので、IC カードの普及にも力を入れていきながら、十分な協議をさせて頂きたい。
- ・ 今申し上げた事情をご理解いただければと思う。

(会長)

- ・ 現時点で、なかなか言いづらいこととお話しいただいた。今後の協議をよろしくお願いしたい。では、交通局に一言お願いしたい。

(委員)

- ・ 平成 28 年 3 月の時点では、市営バスは都市バスへ移譲を完了しており、交通局としては市電のみの状況となっている。市内の公共交通機関で、「TO 熊カード」が使える・使えないといった不整合が起こることはいかなものかと思うので、バス事業者と相談していきたいと思う。また、なにより、市の福祉部局とも十分に協議をしていきたいと思う。

(会長)

- ・ この点については、今後の協議ということでよろしくお願いしたい。

(会長)

- ・ 以上で本日の議事はすべて終了しました。皆様、ありがとうございました。